

1 単元

修学旅行の名所を紹介しよう

2 目標

- (1) 学習段階に応じた評価・批評を積み重ね、自己の学習に生かそうとしている。
(国語科への関心・意欲・態度)
- (2) 後輩が興味を持てるよう修学旅行の名所を紹介するという相手意識・目的意識を持とうとしている。
(書くこと)
- (3) 適切な題名を考え、話の中心を明らかにしようとしている。(書くこと)
- (4) 体験や知識に対して、考えたことや感じたことを書こうとしている。
(書くこと)

3 単元について

(1) 単元観

図は本単元に関する学習活動である。本単元では、修学旅行の名所を後輩に向けて紹介文を書く活動に取り組む。紹介文を読んだ後輩が実際に行ってみたくなるような文章を作成させたい。学習を通して意識されなければならないのは、読み手への意識である。読み手に対象を理解してもらうには、相手の立場を理解し、読み手がどのような情報を望んでいるかを、学習の見通しをもつ段階でもつ必要がある。つまり、最初の段階で相手意識・目的意識をもつことである。そして三つの段階（話の中心を明らかにする段階、構成を考える段階、下書きを検討する段階）において、評価・批評を積み重ね、読み手への意識を高めていく。学習集団内で、自分の考えを見直し、よりよいものにしていけるのである。紹介文は、最終的に読み手に読んでもらい、評価を得る。これにより、読み手の立場を理解し相手の求める内容に応じて文章を書くことができるようになる。

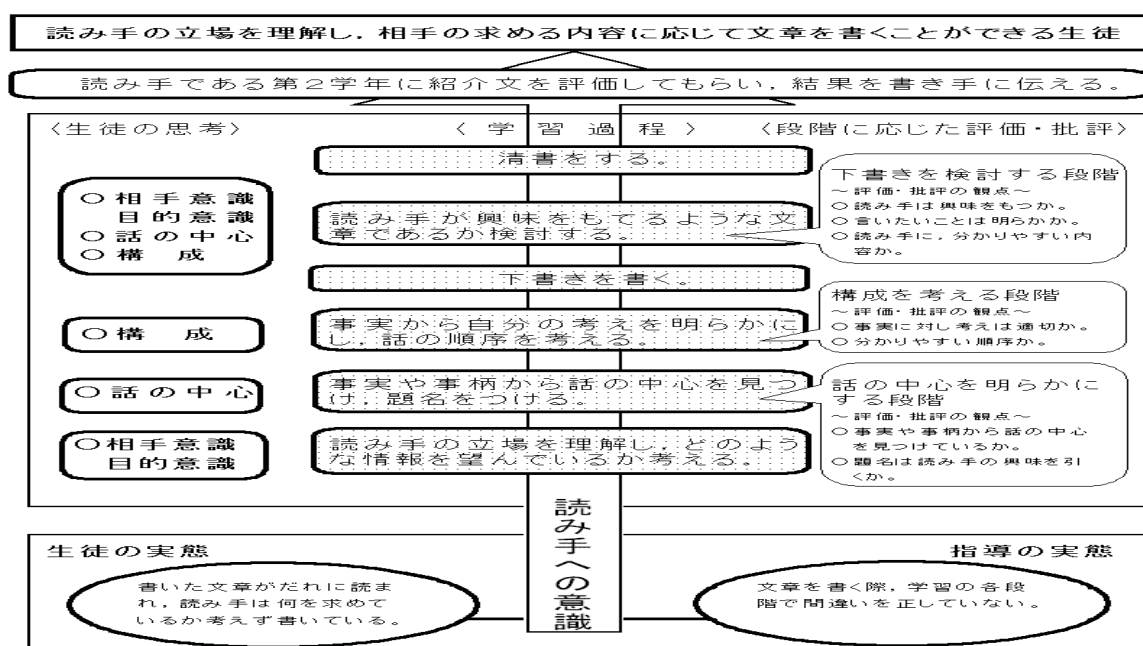


図 読み手を意識して文章を書くための学習活動

(2) 生徒観

本学級の生徒の意識調査（平成20年5月16日実施，第3学年35人）によると，文章を書く上で最も心がけるべきことは，読み手の立場を考えることと認識している生徒は5人であった。これに対して書く力を向上させるために大切なことは，読み手の立場を考えることと回答した生徒は14人であった。意識調査から読み手の立場を考えることが文章を書く上で大切であると考えているが実際に書くとなると読み手の立場を考えることができていないことが分かる。文章の分かりやすさは読み手の判断によることを考えると，読み手の存在を意識して書こうとする態度を養うことは重要なことである。そのためには文章の読み手を実際に設定し，読み手による評価を確かめ，次の学習に生かすことを重ねることが必要である。そこで読み手を意識させるための評価・批評が有効な手だてであると考えた。

(3) 指導観

本単元では，学習段階に応じた評価・批評を積み重ねることで，相手を意識して文章を書くことを目指したい。井上一郎氏によると紹介文は「説明や解説を行うことによって，対象を理解してもらい，一定の行動を期待する」とある。紹介文を読んだ後輩が修学旅行の名所に興味を持てるような文章を書くことを目指したい。そのためには発想の段階から相互評価・相互批評を積み重ね，友人のアドバイスを生かすように指導したい。また観点を明らかにした「ひとこと」アドバイスをを行うこと，活発な意見交換がされ，建設的な批判ができるようにしたい。

4 指導計画

次	時	学習目標及び活動	評価規準
書く準備	1	学習目標：相手意識・目的意識をもとう。 ○ 読み手はどんな立場で，どんな情報を望んでいるかワークシート①で整理する。 ○ グループで意見交換を行い，自己の学習に生かす。	・「相手意識・目的意識」について話し合い，ワークシート①でまとめている。 (評価一覧①参照)
	2	学習目標：話の中心を明らかにしよう。 ○ 紹介したい場所の事実や事柄を箇条書きし，話の中心を明らかにできるようにワークシート②で考え，適切な題名をつける。 ○ 評価・批評をグループで行い，自己の学習に生かす。	・「話の中心」についてワークシート②でまとめている。 (評価一覧②参照)
	3	学習目標：適切な構成を考えよう。 ○ 事実から自分の考えを明らかにし，ワークシート③で順序を考える。 ○ 評価・批評をグループで行い，付せんの順序を考え直す。	・「構成」についてワークシート③でまとめている。 (評価一覧③参照)
紹介文を書く	4	学習目標：構成メモを活用し下書きをしよう。 ○ これまでの学習を生かし紹介文（400～600字）の下書きを作成する。	・これまでの学習を生かし，下書きを作成している。
	5	学習目標：後輩が興味をもてるような文章にしよう。 ○ 観点にしたがい，ワークシート④で読み手に正しく伝わるか検討する。 ○ 評価・批評を生かし，改善したいことを考える。	・観点にしたがいワークシート④で紹介文を検討している。
	6	学習目標：これまでの学習を生かし，清書しよう。 ○ これまでの学習を生かし，紹介文の清書（400～600字）を作成する。 ○ 完成した作品は提出後，読み手（第2学年）に読んでもらい評価してもらう。	・これまでの学習を生かし清書を作成している。 (評価一覧①，②，③参照)

評価一覧

番号	項目	十分達成している	達成している	達成していない
①	相手意識 目的意識	「読み手の立場」「読み手の望む情報」とどちらも適切に書いている。	「読み手の立場」か「読み手の望む情報」のどちらかを書いている。	「読み手の立場」「読み手の望む情報」とどちらもはっきりしない。
②	話の中心	事実や事柄から話の中心を明らかにし，読み手の興味を引くような題名をつけている。	事実や事柄から話の中心を明らかにし，題名をつけている。	事実や事柄から話の中心を明らかにできず，題名をつけていない。
③	構成	事実に対して考えが適切であり，分かりやすい順序である。	事実に対して考えが適切である。	事実と考えを分けることができない。

5 本時の学習

(1) 目 標

観点にしたがって相互評価・相互批評を行い、文章の改善点を明らかにして、自分の文章を見直すことができる。

(2) 準備・資料

① ワークシート ② 下書き ③ 付箋

(3) 展 開

学習内容及び活動	支援・指導上の留意点と評価の観点	資料
1 学習課題を知り、学習に対する見通しを持つ。 後輩が興味を持てるような文章にできるよう推敲しよう。 ～相互評価・相互批評の観点～ ・後輩が興味を持てる内容として適切か。 ・題名が適切であり話の中心が明らかか。 ・体験や知識に対して、思ったことや感じたことが書かれているか。 ・誤字・脱字はないか。文末は統一されているか。	・読み手の立場になってアドバイスを行うことが大切であることを確認したい。 ・後輩が興味を持てる文章にできるよう、相互評価・相互批評の観点をとらえたい。 ・良かったところ、改善するのはどのような点か具体的に記入するように話したい。 ・観点以外のことで気付いたことがあれば、付箋紙を活用するよう支援したい。 ・表記については辞書を活用したい。	
2 観点にしたがい、友人に「ひとこと」アドバイスを行う。	・アドバイスが書けない生徒には印象に残った部分を書き出すよう支援したい。 ② 下書きを読んで、友人に対する適切なアドバイスを記入することできたか。 (下書き、ワークシート)	① ② ③
3 友人の「ひとこと」アドバイスから、自分の文章をどのように改善すべきかワークシートに記入する。	・観点にしたがって、何をどのように改善すべきかということを文章化したい。 ・改善すべきことが見つからない生徒はアドバイスを参考にするよう支援したい。	①
4 改善点を基に自分の文章を見直し、朱書きで下書きに推敲を行う。	② 友人のアドバイスを参考にして自分の文章を見直すことができたか。 (ワークシート)	②
5 本時のまとめをして、次時の学習課題を知る。	・2～3人の生徒の推敲した文章を読み、読み手を意識している点や話の中心を明らかにしている点について賞賛したい。 ・次時の学習課題である「推敲したことを生かし、清書しよう。」を知らせ、学習意欲を高めたい。	